

主任研究員 橋本佳明さん



した。

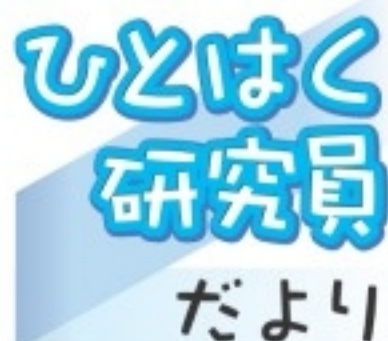
もしも、ヒアリと確認するのに手間取っていたらその間に、羽アリが飛び出して周囲に営巣していたかもしれません。ヒアリの新女王は5^キほど飛んで分散することができ、新しい巣は早ければ7カ月ほどで、また翅のある新女王アリの生産をはじめることが知られています。今頃は兵庫県内にヒアリがまん延し、人の刺傷被害だけでなく、年間20億円以上の農業被害などさまざまな経済活動に巨額な損害

ヒアリ対策に「わさび」

益をもたらしていた可能性もあったのです。

中国からのヒアリの侵入は、今も続き、現時点でヒアリの侵入は15都道府県で48事例に拡大、発見されたヒアリの個体数は1万匹を超えました。この間、環境省と中国を訪問し、輸出コンテナへのヒアリ対策強化をお願いしましたが、その返答は「中国は港湾を完全に管理しており、ヒアリは1匹もない」という趣旨のものでした。それならばと、「わさび」の匂い成分を樹脂に埋め込んだ新素材を使い、ヒア리를コンテナに寄せ付けない安全な忌避剤や、侵入したヒア리를簡便に殺虫できる熏蒸剤の研究開発を始めました。

博物館の研究や、アリのよう



Solenopsis invicta
Photo by Y. Harimoto

博物館の研究や、アリのよう
に小さな昆虫の研究など、社会の役には立っていないと思われ
るかもしれませんが。しかし、私
が博物館で世界中のアリを相手
に研究をしていたことで、ヒア
リが初めて日本に現れた時に、
すぐに、その正体を知ることが
できたのです。「わさび」の匂
いを埋め込んだ新素材も、博物
館で安全な標本管理の新手法を
探していたことで知ることがで
きたものです。ヒアリの出現の
ように、これまでにないことが
起こった時に、意外に、博物館
の基礎的な研究が役に立つので
す。

研究が進むヒアリ

2017年5月、博物館でア
リの研究をしている私のところ
に、神戸港に陸揚げされた中国
コンテナに潜んでいたアリが環
境省から同定のために送られて
きました。そのアリこそ、日本
で初めて侵入が確認された特定
外来生物ヒアリでした。すぐに
ヒアリであると確認できたこと
で、そのコンテナが放置される
こともなく、素早くて確な対策
が実施されました。この時、発
見されたヒアリは千匹近い集団
で、そこには女王アリや働きア
リだけでなく、翅のある新女王
アリやオスアリも含まれていま